

公民館から見た垂水地域振興計画

垂水市大野地区公民館長 田之上 光雄

1 はじめに

(1)大野原地区の起こりと地域性

まず、大野原地区を簡単に紹介します。大正3年1月12日鹿児島島のシンボルである桜島が突然爆発しました。400mあった海峡を流れ出した溶岩が埋つくし、大隅半島と陸続きになるほどの大噴火で、1万3千人を超える方々が被害を受けました。これを期に、被災された桜島の方々と、垂水市からの移住を希望する人々で、山間部への開拓と移住が始まりました。

当時この地は、手つかずの原野だった為、その開墾は想像を絶するものでした。高隈山麓の原生林の巨木を倒して道路を作り、鍬を振り下ろして畑を耕し、苦勞を重ねて開墾していきました。急速ろ過機ができ、衛生的な水が飲める水道がきちんと整備されたのはつい14年前のことです。

また、同時期に二地域から入植した背景から、生活習慣によるトラブルも度々起こりました。桜島から住む場所を追われた人と、垂水市から新天地を夢見て移住する人々には、考え方に温度差があったかもしれませんし、それも当然のことでしょう。89戸542名の大所帯でのスタートだったので、皆の調和を願って、後に大羽重神社が建てられました。

そんな歴史があり、“自分たちで出来ることは何でもす

る”“なるだけ全員で話し合う場を持ち、全員で取り組む”という姿勢が先代から引き継がれ、集落の地域性となっています。

(2)2012年9月現在のデータ

(外国人を含む)

人口 148人

戸数 94世帯

産業 農業・茶業・畜産・自営業

企業 大隅ミート(養豚・精肉)

ジャパンファーム(養鶏・精肉)

観光 高峠つつじ公園・つらさげ芋

集落 大野原・垂桜・高峠

※以下この3つの集落を総称して「大野」とする。

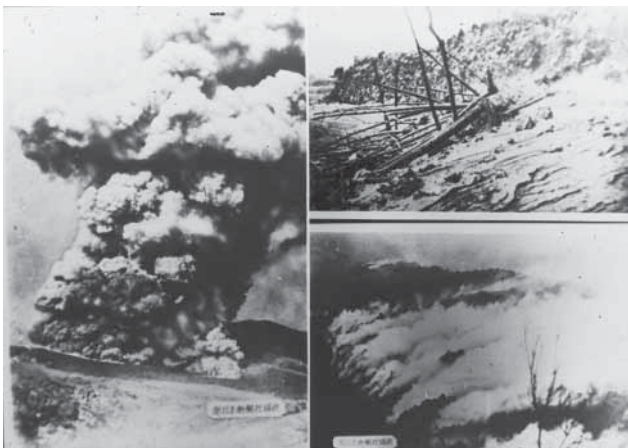
(3)公民館長になって

さて私は、平成22年4月から公民館長を引き受けることになりました。平成18年3月の大野小・中学校の閉校を受け、公民館の活動も縮小気味だった頃でもありましたので、見よう見まねで引き継いでいけば良いという、割と気楽な気持ちでいました。

2 「大野づくり計画」を知る

(1)10年後はいないから

そんなある日、垂水市の企画課より「10年計画」のモデル地区になって欲しいという話が持ちかけられました。すでに1年前からスタートしているらしきことは知っていましたが、まだ役職にも就く前でしたので、何がなんだか分からないままです。早速、課長をはじめ数名の職員の方が来て説明されるとのことで、住民に集まってもらいました。参加者の大半は高齢者です。いわゆる「10年計画」の説明を受けた参加者の意見は次のようなものでした。「10年後いなくて必要ない。」「予算もないのに、何をするのか。何が出来るのか。」



大正3年桜島爆発

(2) 聞けば聞くほど面倒くさい

私には別の疑問がありました。「この計画の意図や全体像が全く分からない。」「なぜ垂水市がこのような市政に変わったのか。」「住民が計画作りになぜ参加しないといけないのか。」

つまり、この初回の説明では、「10年計画」が何を目標としているか、なぜ我々がしなければならないのか、正直全く分からなかったのです。会が終わってから、公民館主事に尋ねてもほぼ同じ意見でしたので、後日二人で市の担当者に詳しく聞くことにしました。2回目で少し分かりましたが、確かさらにもう一度説明に来てもらったと思います。

幾度かの説明を聞いての感想は、面倒くさいというのが本音です。年配の方々が言われるように、なぜそんな先のことを計画する必要があるのか、予算もないのに何が出来るのか、住民が本気で取り組んでくれるのか、具体策をたてられない市職員のための計画作りではないのか、どうせ夢を話し合う場に過ぎず幾年か後には頓挫する手のものだろうと思いました。

(3) よく分からないがやるしかない

しかし、市職員の説明は、それはそれは熱心なものでした。また、これは5年も前から始まっていた「第4時垂水市総合計画」の施政方針の一部だということも知りました。

前館長の時から初期段階説明も始まっており“これは逃げられないなあ”と感じました。

3 「大野づくり計画」の準備が始まる

(1) モデル地区という言葉の魅力

「10年計画」の構想自体に幾らかの不満や疑問があっても、モデル地区になるということに反対意見は一つもありませんでしたので、市の強い意向を受け、取り組むことが決まりました。

なんといってもここは開拓地の子孫の集まり。市の中で「最初に」手がける地区として要望されている状況に、何かひっかかりがあったかもしれません。またこれを機に、少しでも地域活性の向上に繋がる予算も「モデル地区」ならつきやすいのでは？と期待した節もあったと思います。

(2) 事業によっては予算が見つかる

1回目の会合から活発な意見が飛び交いました。「何でも思ってることを述べてほしい」という主旨の会だったから

です。

2回目の会合の初めに企画課長から「人の意見は否定しないというルールにしましょう」との提案を期に、さらに様々な意見が出るようになったと思います。予算のことは、住民側から幾度となく話題に上がりました。「何をしても金がかかる」これは、世の常だからです。市の職員から「現時点では予算はつかないが、事業によっては予算措置が可能になるかもしれない」という旨の回答が(小さめの声)あり、それを受けると場はさらに弾んだように思います。

会合の中で出された意見は、市の職員により大きなメモ紙に書かれ、壁の紙に貼り出されていきました。これによって、繰り返しや忘れが防止され、多様な意見が出されるきっかけになったように感じます。また、会合の全ては録音を取り記録され、それを毎回担当の職員が資料にまとめてくださったので大変助かりました。

(3) 欠席者の意見もアンケートで

さらに、会合に出席できない方々の意見も大事にしたいということで、アンケートをとることになりました。アンケートの配付や、収集は大野原と垂桜の振興会長さん達が手伝ってくれました。

こうして集められた全体の意見は100を越えるものでした。やっと、概ね全戸の意見が集約されたわけです。

(4) 慣れた話し合いの方法で

集まった意見は、それぞれの集落で再度話し合いの場を設けてもらうことになりました。これまで全体で「10年計画」の説明を受けたり、全体で会合を開催しているので、他の方から見れば、計画作りが難航または逆行しているように感じるかもしれません。

ところが実はこれが私たちの慣れたやり方なのです。各集落のことは各集落で話し合う、そんなルールの中でやってきたので、今回も自然とそうになりました。市の職員にもそれを説明し、集落別の話し合いを取り入れることになりました。

初期の段階で市の担当者、計画作り完了までの話し合いの回数や、方法や場所、人数、まとめ方や周知の仕方など、おおまかにでも、もう少し打合せしておけば良かったのかもしれません。そうすれば、集落に合った効率的な会合の方法も早い段階で提案できただろうと思います。

このような紆余曲折を経て、大野集落と垂桜集落、また

全体に関することといった具合に意見を仕分け、それぞれの集落で話し合ってもらう段階まで来て、これからやろうとすることの大枠が見えてきたような気がしました。

(5)区切ることを初めて知る

話合いを重ねる中で、個人的にずっと気になっていることが一つありました。

「今後の10年計画を立てるという大きな方向でやってきたが、それに見合う目標や、『10年後こうなっていたい』というものがない」ということです。

例えば、小学生に目標をあげてもらおうと、「明日の漢字テストで100点をとりたい」「来月の運動会のかけっこで1番になりたい」「中学生になったら野球部のレギュラーになりたい」といった項目があがるでしょう。「勉強もスポーツも頑張るのは、10年後野球選手になるためなんだ」と大目標を夢に目を輝かす子であれば、大したものですね。家族はもちろんのこと、先生も監督も精一杯応援してくれるでしょう。

これまでの話合いに欠けていると感じているのは、その大目標でした。「高齢者の安否確認ができるようでありたい」「公民館を開放して健康教室や料理教室があればいい」「高峠公園のつつじやコスモスの整備・管理をもっとしてほしい」「地産の野菜をブランド化したい」…前述のとおり、このような要望や希望は100を越えるほど意見がでました。でもそれは果たして「10年計画」の本質を捉えているのでしょうか。世間話に毛を生やした程度ではないのでしょうか。

3回目の会合で、アンケートをまとめたり、これまでの話合いをまとめたりしている時に、市の担当者から「この計画は、まず10年後のあるべき目標を立てて、そこから1・3・5年目の目標を決めるんです」という話が、突然出されました。思わず「えっ！？そうだったの」と思いました。おそらく参加者も同じだったでしょう。そこで私は、

「そういう取り組み方をしているのなら、10年後のありたい姿は『人を増やすこと』ですよ」と提案しました。こうして、この夜のうちに、10年後の大目標が決まりました。

(6)やっと決まった大目標

各回の話合いの結果をまとめた広報誌「通信・大野のいま」を振り返ると、1回目の大柱は「大野に人を呼ぶ」になっていました。(巻末資料参照のこと)ところが、幸い

にも「大野いきいき祭り」で数千人の方々が来てくださる実例が既にあります。「人を呼ぶ」のは一見ゴールに見えますが、そもそも観光で生計を立てている地区ではないため、大野が抱える諸問題の最大の解決方法や、“ありたい姿”とは言えません。

2回目の通信の裏面には、農林畜産業・空き家対策・地区美化・農産加工品の分野に分けて意見が集約してあります。これは、きっと10年間、今いる住民が年を取らずに、このままのエネルギーや意欲で取り組めば、おそらく全部達成できるでしょう。ところが、実際は全員が10歳年をとります。また、10年の間で亡くなったり、子供の家に身を寄せたりして、住民は必ず減るでしょう。

取り巻く環境が悪くなる中、また市の財政も厳しく、ない予算の中で、「自分たちでできることは自分たちです」我々の一番の強みを活かしてよりよく生きていくために、なんと言っても必要なのは「人」です。それがはつきりした会合の後、第3回目以降の通信の大きな柱ができました。「大野に人を増やしたい」。有無を言わさない、全員の夢であり、大目標です。

(7)査定のようなものを受けて落胆する

この大目標ができた日の会合をきっかけに、やっとこの計画がどういうものなのかが判ったような気がしました。(市の担当者からは、もちろん、これまでに説明があったと思いますが、私はよく理解出来ていなかったのです。)

その大目標が出来たあとも、何度も何度も話合いの場が設けられました。皆、仕事が終わったあとも関わらず、熱心な意見をぶつけてくれました。「高峠のつつじを昔みたいに咲かせたい」「コスモスを満開にしたい」という意見の根底には、地区の人々の中に、「高峠つつじ公園は自分たちのものだ」という、そんな印象を受けるほど、熱意や愛情を感じ驚くほどでした。

つづいて、これまで整理された意見を「だれが、いつ、どのように」取り組むのかという点について話し合うことになりました。前述のとおり、概ね1・3・5年に分けて表に並べられ、優先順位に星印をつけた資料は最終的にA3版で5枚にもなりました。

市の担当者によると、次回はそれをたたき台とした、市の全課長を迎えての意見交換会を行うとのこと。15回以上の話合いの場をもち、十分な理解もないままでしたが、やっと終わる、完成だ、と思いました。

直に行政の各課長へ住民の声を届けることができる機会なんて滅多にありませんし、市からの強い要望をうけてこのモデル事業を引き受けた経緯もあることから、幾らか楽しみにしていましたが、その結果は意外そのものでした。

というのは、ほぼ一年かけて毎月のように集まり、工夫しながらみんなで作り上げた計画を、いわば課長さん方が査定するような会合の内容だったからです。口々におっしゃるのは、「予算が必要とされるものは現時点ではできない」という内容でした。課長さん方は、簡単に予算措置の口約束はできないという正直な回答だったのでしょう。それは、こちらも重々承知の上で、取り組んだ計画づくりです。

これまでの努力を水の泡にするかのような、答弁で、我々の意見の全てを否定をされたような気がして、皆とてもがっかりしたと思います。また、この取り組みにこういう結末が待っていたとは…と驚き、実際腹も立ちました。

我々は、自分たちによる自分たちのための計画づくりを提案されて、モデル地区になったのではなかったでしょうか。市に政策の具体案を提案する為でも、担当課長の部下になって意見を集約させられていたわけでもないはずで

す。住民は、職員と同じ目線で話合いをしたいと思っています。しなくてもいいことをやらされているというのが大方の参加者の心境なのです。これまでの我々の努力の経緯や、その会合での答弁の基本姿勢は、事前に打ち合わせて来て欲しいと思ったのが、率直な気持ちです。

4 「10年計画」の完成を振り返って

(1) 事前の説明と動機付けが肝心

モデル地区として責任を果たす意味で、単刀直入に言わせてもらうと、10年計画をたてる前段階での段取りをもっと上手にしてほしかったものです。

後日知ったことですが、これがいわゆるPDSAの実践だったのでしょう。普段、そういったマネジメント・サイクルに慣れていない農業従事者や高齢者が大半を占めているので、全員にそういった手法について説明をする必要はないと思いますが、せめて今回のグループリーダーとなる館長や主事には、事前の説明が欲しかったと思います。

おそらく、こういった事業担当者になる職員の方などは、勉強や研修をうけ、プロの講話やアドバイスを参考にされているのではないのでしょうか。我々は素人ですし、事業の

序盤で館長が替わったという事情もあったことから、もっと「動機付け」の段階に丁寧な説明や“盛り上げ”が必要だったかなと思います。今回のような、「なんでこんなこといきなりするの?」「なんなのこれ」「なにがしたいの」という不安をなくす為に。

(2) 話合いの結果生まれたもの

計画が完成したことはもちろんですが、話合いの過程で生まれた大事なことが二つあると考えます。それは、①大野の現状を見つめ直したことで、②大野の将来を見つめ出したことです。

集落の奉仕作業や行事など毎月のように行われている地区ですから、顔を合わせれば、これまでも色々な話をしてきたわけですが、こうして文字になり、分野別にわけられ、グラフや新聞記事などとセットになった資料が作られるとなると、また内容に深みができます。人と違うことを言おうとして、多角的に意見も出たのでしょう。

そうして現状を見つめなすことで、見たくない将来も見えましたし、見たい夢もできました。それが、先見的な数人だけでなく、全体で共通認識を持つことができたのは、この計画作りのおかげといえます。

5 「10年計画」の今

(1) 初の移住者

10年計画づくりを終えた翌年、早速大野に定住したいという青年が現れました。これは思ってもみない申し出だったので皆大変驚きました。早速家探しを始めましたが、元々大野には空き家がそんなにありません。可能性があるとするれば、廃校になった学校に付属している元教頭住宅のみです。





すぐに市の担当者にそのことを相談しましたが、よい返事は得られませんでした。理由は、市の物件なので一般の人は入居させられないとのこと。それでは、市営住宅に切り替えられないのかと尋ねると、賃貸物件にするために多額の費用がかかるため、費用対効果の面から現実的に不可能だと言われました。それでも、「人を増やしたい」という大目標への取り組みの第1歩になる貴重なチャンスを逃すまいと、私は振興会長と共に市長を訪れ、事の次第を相談しました。実際、この要望が受け入れられないのであれば、「10年計画」の実現は無いに等しいと、訴えました。市長は我々の話をよく聴いて下さいました。

しばらく経って、回答がありました。それは、公民館が住宅を借りて、公民館が住宅を管理するという案でした。それには法的な費用はかからないそうです。議会での承認に時間は必要とのことでしたが、私たちは喜んでその方法を受け入れることにしました。また、昨年度よりこの10



年計画に、ハード面に70万円、ソフト面に30万円の費用がつけられるということで、住宅改装の為にこの資金を充てました。手に職のある私と主事が率先して工事に入り、掃除や除草作業等は青年部や婦人部も参加し、節約してなんとか予算の範囲内で施工することができました。

その結果平成24年7月、待望の1名増を果たすことができました。この青年は、地元の企業に就職することができ、また、消防団活動や青年部の活動に熱心に参加してくれています。このことは大野地区にとって大きな出来事の一つです。

先にこの計画の策定があったからこそ、こんなに早く市の住宅に入れたのだと思います。これに続き二人目、三人目が現れることを望んでいます。

(2) その他の活動

計画づくりの中で、特に関心が高かったのが高峠関係のことです。自分たちのものだという意識が強いように感じたので、さっそく市の職員やボランティアと共に、ツツジの障害となるツタ切りなどに取り組みました。同時にコスモスの植え付けにも挑戦していますが、人を呼ぶような開花には至っていません。

大野原いきいき祭りは、この計画作り以前に始まった、自主企画・運営の物産展で、今年で3回目を迎えます。これこそ全員の協力なくしては実現できないイベントです。先人が生み出してくれた「つらさげ芋」は既に、一部で有名な特産品となりつつあります。

また、この祭りは、大野を活気づけるイベントとして、当然この計画づくりに載せられています。





6 おわりに

10年計画に多数寄せられた意見は、目新しいものではなく、普段からこうなったらいいなあと話していたものばかりです。奇想天外なものはなかった反面、現実にも即したもののばかりで実行可能であると言えます。

前述のとおり、これまで教育関係者や血縁以外の方が移り住むことになってあり得ないことでした。この計画があったからこそ、まずは一人定住しました。垂水市も財政難の

中、100万円の補助を出してくれることになりました。このことは、計画に取り組む側には、大きな原動力となります。

この10年計画を行政側から見ると、手間のいる大変な作業だろうと思います。意見を聞き、計画をたて、それを実行してもらおう労力はいかばかりのものでしょうか。多数の地域から様々な意見や要望が挙がってくると思いますが、それを取捨選択するには高い技術も求められることでしょう。

地域別に計画を立てたりしないで、自分たちだけで行政を進める方がずっと楽であるはずですが、敢えて、この手法を取り、実行されている市の職員の皆さんを評価したいと思います。

そうやって生まれた、この大野づくり10年計画は、私たち地区のものであります。出来ることは積極的に行い、見直すべき事は改善して、無理なく、自分たちにあった方法で実現させていきたいです。

いつの時代も、開拓することは求められています。先人達は、鋤でこの地を開きました。私たちもその精神を引き継ぎ、さらに魅力ある地域を創造していきたいと思ひます。

資料：「大野のいま」
(市担当者が作成し、大野地区全戸配布した。)

第1号 通信「大野のいま」 平成22年11月16日

大野のいま

発行：大野地区公民館
「大野づくり計画」
事務局
〒891-2192
垂水市役所企画課
地域政策係
32-1143 (直通)

大野地区公民館
当面の日程

11月16日(火) 19時	「産業部門」1回目話し合い (大野地区公民館)
11月24日(水) 19時	「住環境部門」1回目話し合い (大野地区公民館)
12月12日(日) 10時	「大野いきいき祭り」(旧大野小中学校校庭)

「大野づくり計画」に向け、「1回目の話し合いが行われました」

話には聞きませんが、とめまじりたので、この第一回目となる話し合いが、十一月八日(月)夜七時から、大野地区公民館で開催されました。

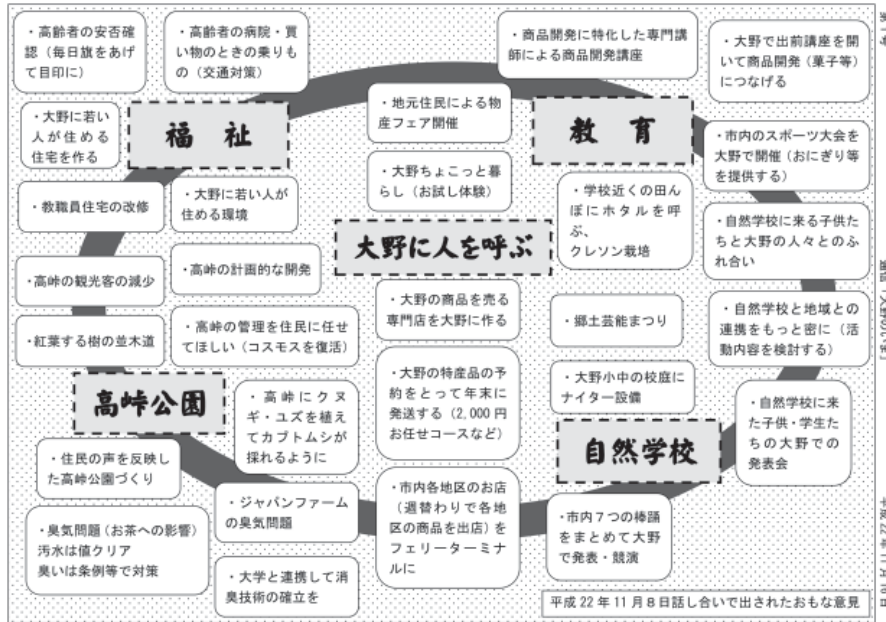
この日は、大野地区公民館の運営委員の方々のほか、「福祉・教育」の課題に特に関連の深い組織の代表者ら全一六名が出席し、私達の「10年後の「あめたいさ」や将来像について、課題を挙げたり意見交換が行われ、夜九時半まで

話し合いは「福祉・教育」だけでなく、高峠公園の整備や若者が地元から通える住環境の問題、また、特産品や加工品を「売場」にしたいという「うらなアイディア」がいろいろ出ました。また、こんな意見もありました。「まず大野に関心を持ってもらいたい。これらの意見を大切にしながら大事に大野を作っていきますよ。」

右にあるとおり、事務局では関連の深い3つの部門(「福祉・教育」「産業」「住環境」)で話し合いを行うことにしていますが、出席者から「話し合いはまとめてやった方がいい」という意見が出ました。ちがう進め方を決め変更も可能ですが、みなさんお忙しい時期だと思ひますが、話し合いのときだけでなく、みなさんの声を事務局へお気軽にお寄せください。(企画課 企画課 32-1143 (3))

▲参加された方々の熱心な話し合いが続く

だれが、どのように、何をする？



第2号

通信「大野のいま」

平成22年11月24日

話し合いをつづけています



「大野づくり計画」の話し合いを行いました。

「大野のいま」のメンバーが、市担当などと一緒に、話し合いを行いました。話し合いでは、「大野の野菜は人気がある。いちど売って銭（せん）をとてみよう」といった意見があった。農産加工品の取り組みについても、「大野産のものを使ってほしいものはできている。次は売り方を学んで自信をつけたい」という前向きな意見交換がありました。

「大野のいま」のメンバーが、市担当などと一緒に、話し合いを行いました。話し合いでは、「大野の野菜は人気がある。いちど売って銭（せん）をとてみよう」といった意見があった。農産加工品の取り組みについても、「大野産のものを使ってほしいものはできている。次は売り方を学んで自信をつけたい」という前向きな意見交換がありました。

大野のいま

発行：大野地区公民館
「大野づくり計画」事務局
〒991-2192
垂水市役所企画課
地域政策係
32-1143（直通）

大野地区公民館
当面の日程

11月24日（水）19時
「住環境部門」1回話し合い（大野地区公民館）

12月12日（日）10時
「大野いきいき祭り」（旧大野小中学校校庭）

「大野のいま」のメンバーが、市担当などと一緒に、話し合いを行いました。話し合いでは、「大野の野菜は人気がある。いちど売って銭（せん）をとてみよう」といった意見があった。農産加工品の取り組みについても、「大野産のものを使ってほしいものはできている。次は売り方を学んで自信をつけたい」という前向きな意見交換がありました。

「大野のいま」のメンバーが、市担当などと一緒に、話し合いを行いました。話し合いでは、「大野の野菜は人気がある。いちど売って銭（せん）をとてみよう」といった意見があった。農産加工品の取り組みについても、「大野産のものを使ってほしいものはできている。次は売り方を学んで自信をつけたい」という前向きな意見交換がありました。

だれが、どのように、何をする？

<h3>農林畜産業</h3> <ul style="list-style-type: none"> ・茶業が柱 ・特色ある茶づくり ・有機肥料 ・無農薬 ・「付加価値」とは? ・お茶せっけん、紅茶、ウーロン茶 ・高峠でハウス ・茶づくり体験 ・お茶だけではない住民全体で ・降反対策 ・個人への補助 ・補助のあり方見直し ・大野原の物産館 ・人がいる場所に出す ・アザレア? ・販路拡大 	<h3>空き家対策</h3> <ul style="list-style-type: none"> ・夏の別荘に短期利用、宿泊用 ・借り手がない ・修繕費が高い ・地区でとりまとめ ・市の空きバンク制度 ・空地の登録 ・土地付き、山付き ・五右衛門風呂 ・10年後のクリーンな地域へ ・子供が喜ぶ ・情報発信し、リピーターを確保 	<h3>地区美化</h3> <ul style="list-style-type: none"> ・奉仕作業人手不足 ・作業回数を増? ・高峠対策 ・臭いについてはみんなで頼む ・会社の人は認識不足 ・もっと声を大に
<h3>農産加工品</h3> <ul style="list-style-type: none"> ・加工技術の向上 ・加工グループの管理と運営法を学ぶ ・次のステップに進むために研修 ・宣伝のしかた ・消費者アンケートで「また買いたい」をつかむ ・ブルーベリー ・観光農園 ・大野らしさをいかに ・軽トラ市 ・クラス対策 ・ジャムづくり ・自然学校との連携 		
<p>平成22年11月16日話し合いで出されたおもな意見</p>		

第2号
掲載「大野のいま」
平成22年11月24日

「人を増やしたい！」

みんなで考える大野地区 10年後の「ありたい姿」

「大野づくり計画」3回目の話し合い(住環境部門1回目)は、大野原・垂木の両地区のみならず、市をかね、全一八名の参加で、一月二十四日(水)、「大野地区公民館」で開かれました。話し合いは、大野原の水道管整備、大野原の児童遊園地の拡張に関する事業導入への要望など、みなさんの生活に直接関係する意見を中心に活発な話し合いが行なわれていました。また、話し合いは多くの方が思いえが

大野のいま

発行：大野地区公民館
「大野づくり計画」事務局
〒891-2192
大野市役所企画課
地域政策係
32-1143 (直通)



▲ 3回目の話し合いの様子

く10年後の「ありたい姿」が、「集落の人口を増やしたい」にまとめられるのでは? という意見も出されました。裏面に出し合った意見をまとめた「大野のいま」が、大野地区公民館で開かれました。

参加しましょう

右の日程で、大野地区公民館で臨時総会を開き、全員の賛同を得た上で、「大野のいま」を正式に発行する予定です。

これまで、各団体長さんらによる3回の話し合いや、振興会のみなさまから貴重なご意見が寄せられています。今回は、「大野のいま」の計画だからみんなで決めたい」という意見や、「もっと住民ひとりひとりの意識を高める必要があるのでは? という指摘もあり、総会開催となりました。総会では、意見のとりまとめや、今後の進め方等についても話し合われる予定です。

だれが、どのように、何をやる?

暮らし・住環境

- ・公民館の補修（塗り替え・屋根）
- ・学校先のカーブ見通し悪い
- ・大野原～垂桜の連絡道の拡張を要望
- ・道路の悪いところを改修
- ・大野原防火用水タンク（生コン）
- ・臭気対策
- ・水道が不便
- ・水源地までの舗装を要望
- ・事業には辺地債を活用
- ・宅地譲渡制度
- ・大野原急遽ろ過器のろ過砂更新時期
- ・水道管を改修し、水圧の改善を
- ・防災無線の受信機を設置
- ・消火栓を整備
- ・畑の貸出制度

「人を増やしたい！」

桜・花木

- ・桜（ソメイヨシノ）の花芽が着かない
- ・垂桜の桜は山桜
- ・大野でのお試し暮らし体験

高峠・自然学校

- ・高峠公園にグランドゴルフ場
- ・プールで釣り堀り
- ・学校プールの有効活用（ニジマス等）

平成 22 年 11 月 24 日話し合いで出されたおもな意見

第4号 通信「大野のいま」 平成22年12月1日

第4号 通信「大野のいま」 平成22年12月8日

大野のいま

大野原振興会の「こうありたい」

振興会臨時総会報告その1

二月一日（水）、大野地区公民館で大野原振興会臨時総会が開催され、「大野のいま」の計画について、これまでの運営委員（団体長さん）の努力や成果の説明とともに、振興会としての議論が行われました。

大野原振興会から地区公民館長を招き、二〇名が出席し、市企業課から四名が参加しました。

後半は、大野原振興会として重要な意見は何かを協議、協賛作業が行われました。裏面に掲載された項目を掲載しております。

今後の協議については、二〇年後の「ありたい姿」＝大野の人を増やしたい」に向かっていくこと、このままの計画でいいのか、一年目は何をするか、二年目はどうするか、また、課題を解決するために市は具体的に何ができるのか、などこれから計画づくりに向けて話し合いのテーマとなります。

だれが、どのように、何をやる？

発行：大野地区公民館「大野づくり計画」事務局 〒891-2192 垂水市役所企画課 地域政策係 32-1143（直通）

大野地区公民館 当面の日程

12月12日（日）10時 「大野原いきいき祭り」（旧大野小中学校校庭）

12月13日（月）19時 垂桜振興会臨時総会（垂桜公民館）

第4号 通信「大野のいま」 平成22年12月8日

最重要項目(大野原振興会)

臨時総会において、たたき台の92項目にわたる意見や要望から協議選択

こうありたい	部門	たたき台番号	意見・要望
わたしたちは大野に人を増やしたい	住環境	68・69	・水道施設、水道管の整備・改修 ・大野原急遽ろ過器のろ過砂更新
		83・84	・臭気問題の解決に向け、みんなで事業所に頼む、もっと声を大に ・市と大学が連携して消臭技術の確立を
		記載なし	・県道（中尾橋～田地区間）の拡幅の早期実現
福祉・教育	22 中心に	1	・高齢者の安否確認（毎日旗をあげて目印に）
		5	・高齢者が日中過ごせるような場所をつくる
		6	・地区公民館の補修（塗り替え・屋根）

～大野地区10年後の「ありたい姿」～

大野のいま

垂桜振興会の「最重要項目」を決定

「大野への計画」を始めるにあたり、多くの議論がなされた。その中でも、垂桜振興会が、垂桜公民館の倉庫を改修する見通しが出たこと、この計画の重要性を再認識する機会となった。この計画の重要性を再認識する機会となった。

「大野への計画」を始めるにあたり、多くの議論がなされた。その中でも、垂桜振興会が、垂桜公民館の倉庫を改修する見通しが出たこと、この計画の重要性を再認識する機会となった。この計画の重要性を再認識する機会となった。



▲12/13 垂桜振興会臨時総会の様子

「最重要項目」を裏面に掲載

振興会として最重要項目として、今後の話し合いに取り上げていくことになりました。

「大野づくり計画」は、この話し合いを経て、「大野づくり計画」の今後の話し合いについて、運営委員のみならず、市民の皆様にも広くお知願します。今後の話し合いが決まりましたら、事務局よりお知らせいたします。

だれが、どのように、何をやる？

最重点項目(垂桜振興会)

12/13 臨時総会において出席者から出された意見をもっと、最重点項目とする

- ・6年後の肝属地区茶業振興大会に向けた垂桜の対応、整備
- ・田地形～垂桜集落への市道整備
- ・農道(茶園周辺3本)の整備
- ・降灰対策のためビニールハウス導入検討
- ・看板設置の要望
 - ・登山口までの道標
 - ・登山口
 - ・垂桜から垂水への分岐点
 - ・ローマ字の看板
- ・垂桜公民館の倉庫を改修する
 - ・公民館をみんなが「くつろげる場所」「集まる場所」に
- ・登山客向けに、地域産品の販売所をつくる
- ・垂桜公民館上の運動場の管理方法を改善
- ・紅葉樹を生かして散策できる公園と、駐車場の整備
 - ・ニッセイの森など散策ルートづくり

「大野はひとつ」

～大野地区10年後の「ありたい姿」～

大野のいま

「大野づくり計画」は次の段階へ



1月11日(火)に行われた話し合いの様子

新しい年を迎えました。「大野への計画」の話し合いも、新たな段階に入っていますので、報告します。

話し合いは、一月に入ってから運営委員のみならず、市民の皆様にも広くお知願します。今後の話し合いが決まりましたら、事務局よりお知らせいたします。

話し合いは、一月に入ってから運営委員のみならず、市民の皆様にも広くお知願します。今後の話し合いが決まりましたら、事務局よりお知らせいたします。

だれが、どのように、何をやる？

「大野づくり計画」のいま

日程	参加者数 (事務局含む)	概要
1月11日(火) 19:00～ 21:30	18名	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの進め方を全体で確認 ・すべての意見や要望を振り返る ・整理、しぼりこみ作業を行う ・全部で102を数えた項目が、28の「こうありたい」に整理、統合される
1月14日(金) 19:00～ 22:00	17名	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめられた項目ごとに、「地域」・「市」・「県、国」のだれが動くのかを決めてゆく ・同様に、「地域」・「市」・「県、国」がいづく(前期・中期・後期)、どのように動くのかを語り合う ・しぼりこんだ中でも特に大事と判断された項目に「☆」印をつけ、優先度を一層高める ・「大野原いきいき祭り」と「ふれあいスポーツ大会」、「夏祭り」・「豊年祭」の開催を、「こうありたい」項目に追加する

だれが、どのように、何をやる？

大野のいま

・ 行動計画を補強する
・ 実現の可能性を追求する
・ 大野地区と市役所関係課長との対話

「大野へい」は、市民の声を大切にし、大野地区の課題を解決するために、大野地区公民館と市役所関係課長との対話を行っています。今回は、大野地区公民館と市役所関係課長との対話を行いました。対話の模様を掲載します。



▲1月21日(金)市関係課長同席の話し合い

発行：大野地区公民館
「大野づくり計画」事務局
〒891-2192
垂水市役所企画課
地域政策係
32-1143 (直通)

大野地区公民館
当面の日程

2月18日(金)
19時～
計画書全体の内容を協議する話し合い
大野地区公民館

「大野へい」は、市民の声を大切にし、大野地区の課題を解決するために、大野地区公民館と市役所関係課長との対話を行っています。今回は、大野地区公民館と市役所関係課長との対話を行いました。対話の模様を掲載します。

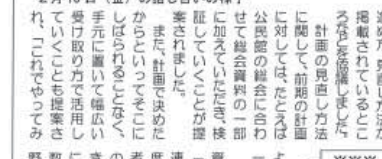
だれが、どのように、何をやる？

概要		
日程、参加者数(市役所関係各課、事務局含む)	対話(主なものみ掲載します)	
	地区	市役所関係各課
1月21日(金) 19:00～21:30 26名参加	公民館のサロンや高齢者の取り組みは、自分たちの案を持って地域に合った取り組みをしたい。 大野原水道施設整備導入に補助事業の補助率引き上げを要望する。小中学校時代から学校にも水を供給してきた。	講師派遣やバス送迎は可能なので、地域の案や計画を持って相談いただきたい(保健福祉課)。 市内 22 箇所の集落水道の整備を現行どおりで行っており、公平性の観点から補助率の引き上げは厳しい。何らかの方法で自分たちの積み立てを十分に行っていただくなどの対応も必要(生活環境課)。 市内においても地上式消火栓の設置はなく、現在のところ改修の予定はない。 大野原防火水槽については、改修(生コン)を計画している。分回と日程を打ち合わせる(消防本部)。 実際に見せていただく。補修部分の見積をあらためて取っていただきたい。 垂水の方の対象事業は総額経費の40%、上限36万円(社会教育課)。 煙の貸し出しは、管理できる面積に応じて可能。できる範囲でいっしょにやる(商工観光課)。
1月28日(金) 19:00～21:30 29名参加	人を呼び込むための住宅整備。市営住宅をきむ、若い人が住める住宅の整備を要望。 垂水消火栓を地下式から地上式へ改修することを要望。 かねての訓練で防火・消火機材の使い方を女性や高齢者をきめてみんなが知っておくことが大事だ。 地区公民館の補修。とくに排水の改善は大至急。 垂水公民館の倉庫新築。 高峠コスモスの植え付けと管理を実施するため、公園内の畑の貸し出しを要望。	市の全人口が減っている中で、需要と供給の面から、今、早急に新たに建てなければならない状況ではない。まずは、区内で空いている家の有効活用を(土木課・企画課)。 大野原防火水槽については、改修(生コン)を計画している。分回と日程を打ち合わせる(消防本部)。 実際に見せていただく。補修部分の見積をあらためて取っていただきたい。 垂水の方の対象事業は総額経費の40%、上限36万円(社会教育課)。 煙の貸し出しは、管理できる面積に応じて可能。できる範囲でいっしょにやる(商工観光課)。

両日の対話を「大野づくり計画書」本体に反映していきます

大野のいま

これでやってみよう
「大野へい」は、市民の声を大切にし、大野地区の課題を解決するために、大野地区公民館と市役所関係課長との対話を行っています。今回は、大野地区公民館と市役所関係課長との対話を行いました。対話の模様を掲載します。



2月18日(金)の話し合いの様子

発行：大野地区公民館
「大野づくり計画」事務局
〒891-2192
垂水市役所企画課
地域政策係
32-1143 (直通)

「大野づくり計画」報告会
日時：3月25日(金)夜7時～9時
場所：大野地区公民館
内容：鹿児島大学小栗准教授による講演と質疑、意見交換会
※別途、文書で案内します
※報告会当日は、垂水から大野地区公民館までバスを出します(垂水公民館18:40発)

「大野へい」は、市民の声を大切にし、大野地区の課題を解決するために、大野地区公民館と市役所関係課長との対話を行っています。今回は、大野地区公民館と市役所関係課長との対話を行いました。対話の模様を掲載します。

だれが、どのように、何をやる？

「大野づくり計画」平成22年度取り組み経過 多数のご参加ありがとうございます				
話し合いで進めてきたこと	日付	話し合い等の名称	参加者数	
・再スタートと位置付ける	H22/7/30	大野地区公民館運営委員会で説明を行う	30名	
・意見、要望、「こうありたい」を何でも出し合う	H22/11/2	両振興会の全戸へ意見募集	—	
	H22/11/8	「福祉・教育部門」の話し合い	16名	
	H22/11/16	「産業部門」の話し合い	17名	
	H22/11/24	「住環境部門」の話し合い	18名	
・振興会として最重要、最重要項目を確認する	H22/12/1	大野原振興会臨時総会	24名	
	H22/12/13	垂水振興会臨時総会	25名	
・出た意見の整理、選択、絞り込み作業	H23/1/11	地区公民館運営委員中心の話し合い	18名	
	H23/1/14	地区公民館運営委員中心の話し合い	17名	
・行政への要望に対する回答や見解	H23/1/21	市役所関係課長同席の話し合い	26名	
	H23/1/28	市役所関係課長同席の話し合い	29名	
・資料としての仕上げ作業	H23/2/18	計画書全体の内容を協議する話し合い	16名	
・活用策、課題、展望	H23/3/25	報告会(鹿児島大学公開講座を活用)		
・事務局から報告	H23/3/27	垂水振興会総会(報告会、予定)		
・事務局から報告	H23/3/	大野原振興会総会(報告会、予定)		

○平成22年度の話し合い参加延べ人数

236名

○平成22年度の話し合い回数：11回

○総話し合い時間：24時間50分05秒
(事務局レコーダー等より算出)